

(曾於郡大崎町大字永吉字堂地迫)

位置と環境

遺跡は町の中心部から南へ約3km離れた町の最南端部に位置し、永吉台地の鷺塚集落内の南縁辺部に所在する。同じ台地上には堂地迫遺跡、桜迫遺跡、梶谷城跡がある。

これらの遺跡が立地する台地の南縁辺部には、並行するように東側に汐入川が流れ、横瀬砂州が形成されている。(第1図)

調査の経緯

遺跡は、町道の拡幅工事中に玄室の一端が削り取られたことにより発見された。1970年には河口貞徳が調査を行い、1984年に町の指定を受けた。

遺構と遺物

竪穴は縦157cm、横187cm、深さ165cmの不正円形、羨道は幅71cm、高さ53cm、長さ47cm、玄室の長さは205cm、幅106cm、高さ60cmのだ円形で、天井形はドーム状である。

玄室の床面は軽石礫が敷きつめられており、南東端に近いところで頭骨の一部が残存していたことから、遺体は頭部を南東に向けた状態で、床面に直接埋葬されていたと考えられ副葬品は刀子が一個発見されている。

羨道は玄室の長辺に取り付けられた平入りで、土で閉塞されている。

この地下式横穴墓は、7世紀頃の古墳時代後期のものと考えられている。



写真1 鷺塚地下式横穴墓の保存状況



第1図 鷺塚地下式横穴墓群の位置

特徴

周辺で同様の地下式横穴墓が2基発見されたと言われているが、1基は『大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書』(1)「神領地下式横穴5号」の中でその所在を図示している(第2図)

飯隈地下式横穴墓群、神領地下式横穴墓群にも見られるように、地下式横穴墓は多くは群集して所在していることから、鷺塚地域における地下式横穴墓は未発見のものが存在すると推定される。

資料の所在

出土遺物は、大崎町教育委員会に保管されている。

参考文献

大崎町教育委員会1992『郷土の歴史』

大崎町教育委員会1988「神領地下式横穴5号」『大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書』(1)

(内村憲和)



第2図 鷺塚地下式横穴墓群(★)